

志士の公認会計士

久野康成の

「私なら、こうする！」

第43回

非常識な実践経営アドバイス



Question

東京で独立すべきか、地元岡山に帰って独立すべきか迷っています。どちらが成功しやすいと思いますか？

(岡山県出身 34歳)

Answer

東京でビジネスモデルをつくれれば後の発展が容易に

地元に戻って独立すべきか、あるいは現在働いている東京でそのまま独立すべきか。独立を目指す人にとって、場所の選定は非常に重要です。私が32歳で独立する時、地元の愛知県に帰

ることを考えたことがあります。地元には友人、知人も多く、土地勘もあるので安心できるのが一番の理由です。生まれ故郷で、錦を飾りたいという気持ちもありました。

これに対して東京は、巨大なマーケットとして魅力は大きいですが、逆に言えば競争も大変

厳しいのが現実です。だから必ずしも東京のほうが有利とは言えません。それで初めは地元で独立したほうが安心できると考えました。

今から思えば、自分自身の経営ビジョンが固まっておらず、取りあえず、当面自分が食べていける稼ぎがあれば十分と思っていたのでしよう。しかし後になって、東京での独立を決意しました。

当社の元社員で、税理士とし

て独立した人がいます。当社で働いている時、彼は「将来は父が経営する税理士事務所を継ぐことになる」と言っていました。でも私は「事務所経営はそう簡単に承継できるものではない」と忠告しました。

結局、彼は、地元の埼玉ではなく、東京で独立する道を選びました。そして、数年がたち、実父が経営する税理士事務所を合併し、税理士法人に組織変更をしたのです。

これには正直、驚きました。多くの人は、地元に戻って父親の経営する会社に入社します。しかし、彼は東京で会社を立ち上げ、ある程度成功した上で合併を行ったのです。まさに、理想的な「帰省」の方法だと思いました。

私がなぜ、地元で独立しなかったかと言うと、人脈も何もない所で、自分の実力だけで勝負を試みてみたかったからです。結果として、非常に大きな効果がありました。何の人脈もない所でも成功するビジネスモデルをつくれれば、東京以外で支社を展開することが容易となるのです。その結果、後に横浜、名古屋、大阪に支社を設置し、さらにはインドにも進出することができました。

故郷の人脈を頼りに起業に成功したとしても、それは特殊なケースであり、普遍的な成功モデルとは言えません。最初はどこでビジネスを始めるかは、その後に影響を与えるのです。

ターゲットとなる顧客が多い場所が起業の適地

地元で成功した後、東京に支店を出す企業もたくさんあります。しかし、地方に本社を構えた企業の東京支店は、大きなマーケットを生かしきれず、苦戦しています。マーケットのサイズを考えれば不思議なことですが、実際に東京支店が本社の売り上げを超えている企業は少ないのが現実です。本当に東京で成功したいのであれば、会社の中で最も優秀な人材を登用すべきです。これができなければ東京での成功は難しいと言えます。最も優秀な人材とは、経営者自身です。つまり、東京に本社を移し、経営者自身も東京に住居を構えるべきなのです。

独立は、自分の将来に対する期待と不安が入り混じります。不安な気持ちが強くなるほど、地元に戻って独立したくなるものです。人間にも帰巢本能があります。安心できる場所に帰り

たくなるのが人情でしょう。

しかし、起業家にとって、安心はあまり意味のないものです。時には、積極的にリスクを取っていかなければ成功はありません。つまり、起業するに当たり、不安要素が多いということは、また、十分にビジネスプランが固まっていないということかもしれません。このような状態では、たとえ地元で独立したとしても成功する確率は少なくなります。ビジネスプランが固まれば、迷いはなくなるものです。その優位性が、自分自身の不安要因を吹き消してくれるからです。

この状態になれば、もう、どこ

で独立するべきか悩まなくなると思います。たとえ競争が激しくても、マーケットサイズの大きな東京を最初に選ぶかもしれません。

独立は、誰の

ためにするのかを考えてみましょう。自分のためのものであれば、保身に走ることがあります。

しかし、自分にしかできないサービスを顧客のために行うのであれば、顧客が誰かを考えなければいけません。自分が行うサービスに最も適合する顧客はどこにいるのか。この観点から場所の選定を行えば良いのです。それが、起業目的が「企業」になるか「生業」になるかを決めるのです。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

【プロフィール】

久野康成(くのやすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式会社コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。